

# 骨太の子育て



フリースクール上田学園長  
上田早苗  
*Sanae Ueda*

# 骨太の子育へ

フリースクール上田学園長  
上田早苗  
Sanae Ueda



Honebuto no Kosodate  
©Sanae Ueda

---

2001 Printed in Japan

## メリハリをつけた愛情を注いでください

あなたは今までに、子供が嫌がるほど強くギュッと抱きしめたことがありますか？

幼少期の子供を抱えているご両親は、自分の子供を中途半端に抱きしめるのではなく、時折り、思い切って抱きしめてあげてください。子供が腕の中でじたばたしても、子供を包み込んだ腕を決して離さないでください。

親は子供に遠慮する必要はありません。愛情を示すときには思いっきり抱きしめる。叱らなければならぬときには思いっきり叱る。一生懸命頑張ったときには思いっきりほめる。これが子育ての基本です。

子供に自信を与えて欲しいのです。「絶対、最後までお前達を見捨てない」という意思表示で「私には心から愛してくれる人がいる」という自信を与えてください。

愛情に満腹になった子供達は、自然と一人で歩き出します。「家族に支えられている」という自信を持った子供達は、自分のやりたいことを探し出します。子供を育てた親自身も、「やるだけやった」という満足感が得られれば、子供にしがみつくことなく、自分の道を求めるはずです。

逆説的に聞こえるかもしれませんが、「子供が嫌がるほど抱きしめる」ことは、親の自立、

子の自立を促す大きなカンフル剤なのです。

「急がば回れ」の格言通り、親がちよっと立ち止まり、子供にその年齢に合った愛情をたっぷり与えてあげる。これが子供が親から精神的にも経済的にも離れ、社会で逞しく自立していく本当の「近道」です。子供をギュッと抱きしめるのは、子供の成長を楽しみながら、自分の時間を子供に合わせて、ゆったりとした気持ちで子育てができるようになる考え方のヒントです。

日本という国が豊かになり、親が経済的なゆとりを持てるようになりました。子供の数が少なくなり、時間的なゆとりを持って子供の面倒が見られるようになりました。しかし、そのゆとりが子供を苦しめる結果になるとは誰が予測したでしょうか。

子供時代はその時しかありません。一歳から二歳へ、二歳から三歳へとゆったり流れていく子供の時間。それを子供から取りあげてしまったのは、「自分の子供には」という親の過剰な愛情と期待です。何でも効率的に、という大人の時間の流れの中で子供を育ててしまった結果、世の中の歯車も歪んで動きだしてしまいました。

早期教育をすることでひ弱な秀才は育つかも知れません。しかし、大人のペースでいろんな要求を課す早期教育なら、大多数の普通の子供には本来の「子供の時間」が失われるだけで、メリットはないはず。



それよりは、その年齢、年齢でしつかりと愛情を注いであげることの方が大切です。それも頭で考えた愛情ではなく、むしろ心で感じる動物的な愛情で。

大事なのは、親御さんや子供をとりまく大人達や社会は、自分の生き方や生き様ざいまをお手本サンプルとして子供にしつかり見せていくことだと思います。たとえば、「格好悪い親!」「格好悪い大人!」と思われようと、大人になれば、子供達はきちんと理解し、評価していきます。私達がそうだったように。

確かに、子育ては大変なものです。誰もが思った通りに育ってくれないと悩むものです。しかし、思った通りに行かなくて当たり前だと少し開き直ってみてください。親が「いいものはいい」「正しい」と思うことをシンプルに伝えていけば必ず子供に伝わります。だから親は日々是ひびこれ自分で伝えることを実践していくことに尽きると思うのです。

巻末には対談という形で、「作家村上龍」を真摯しんしに生ききる村上龍さんと、「子供がよくなればそれでいいんですよ!」と子供の教育に専念する熱血陰山先生のご協力をいただきました。深く感謝申し上げます。

東京武蔵野、吉祥寺きちじょうじの小さな学校で書いた小さな本。少しでも何かのお役に立てればうれしいのですが。